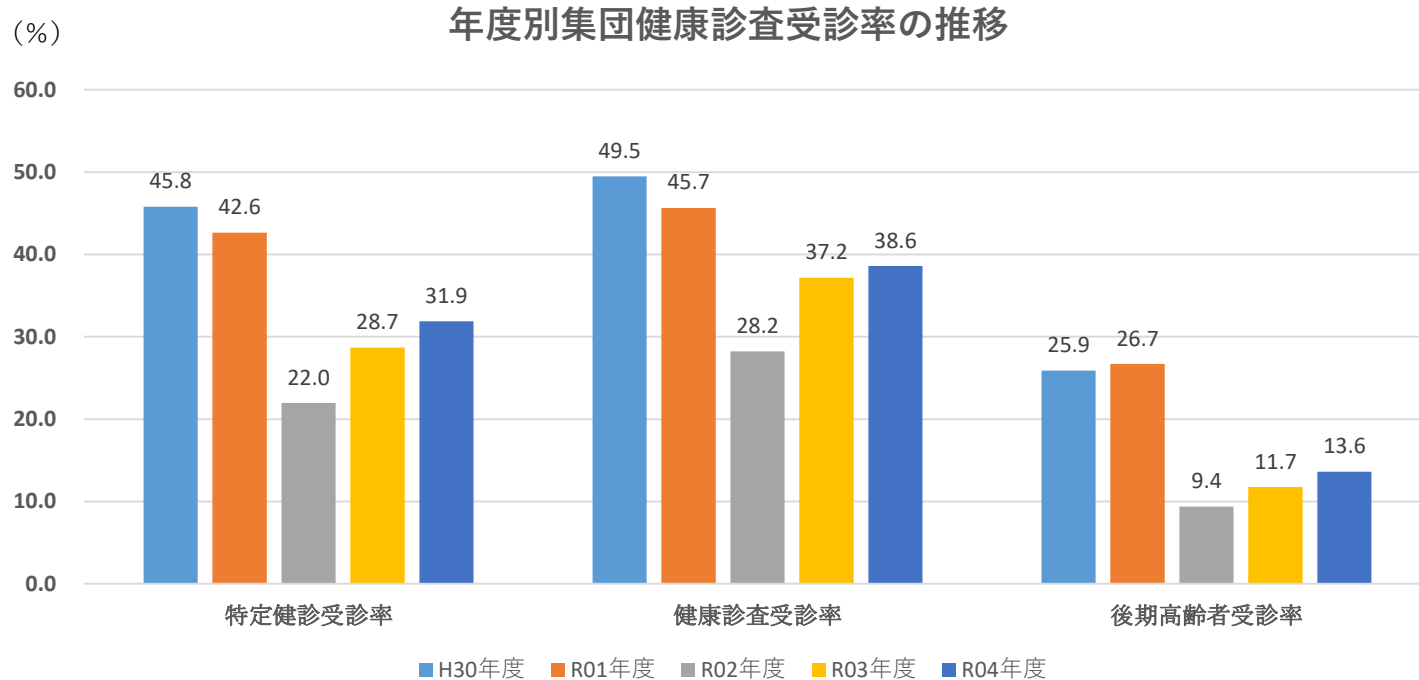


令和4年度の主な事業の成果

- 1 健康診査受診率向上の取り組みについて
- 2 がん検診受診率向上の取り組みについて
- 3 肝炎ウイルス検診の拡充について
- 4 Withコロナ時代の健康づくり事業の取り組みについて

1 健康診査受診率向上の取り組みについて①

【実施状況】



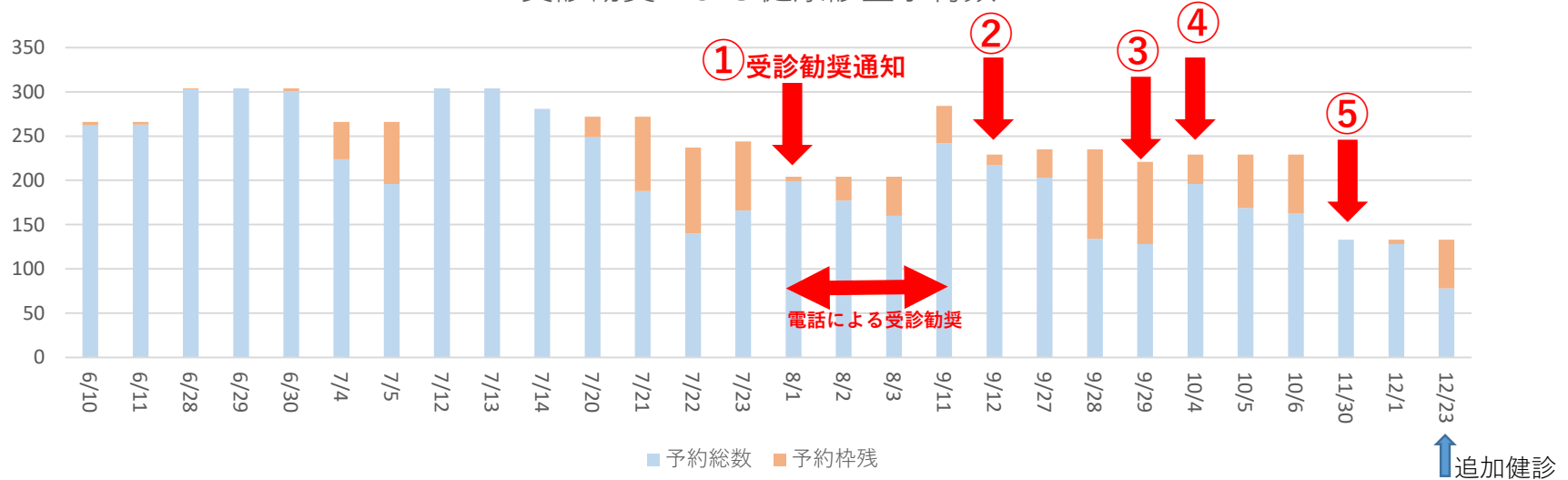
各健診ともに、令和3年度よりも受診率が上がっています。コロナ禍前の令和元年度と比較して、特定健診は約7.5割、健康診査は約8.5割、後期高齢者は約5割まで受診率が改善してきています。

未受診者への電話での受診勧奨では、コロナ禍での感染の不安や、予約制になったことへの戸惑いの声が聞かれています。

1 健康診査受診率向上の取り組みについて②

【実施状況】

受診勧奨による健康診査予約数



<健診受診勧奨の実施状況>

	健診日	会場	受診勧奨はがき発送日	発送地区	発送人数
①	8/1～8/3	燕庁舎	6/27	燕地区	2,510
②	9/11・9/12	吉田産業会館	7/25	吉田地区	1,635
③	9/29	分水公民館	8/17	分水地区	915
④	10/4～10/6	吉田産業会館	8/22	全体	2,232
⑤	11/30・12/1	吉田検診センター	10/14	全体	3,472

・健診予約期間に合わせて受診勧奨はがきを5回送付しました。最後の受診勧奨では県事業を活用したナッジ理論を基に5パターン作成し、より受診行動につながるよう工夫しました。

・健診日程が半分過ぎた8月～9月にかけて電話での受診勧奨を実施しました。

【対象条件】

- ① 年齢41～59歳
- ② R3年度未受診かつH31年度、R2年度に1回以上の受診有

1 健康診査受診率向上の取り組みについて③

【課題】

- ・令和2年度から徐々に健診の受診率が改善してきているものの、コロナ禍による受診控えや、予約制への戸惑いが、受診率に影響を及ぼしている状況が続いています。今後も、予約しやすい環境づくりと、感染対策に留意した健診体制に加え、効果的な受診勧奨をしていく必要があります。
- ・予約制については、「待ち時間が少なく、混んでいないことから安心して受診できる」と一定の効果があり定着してきています。

【変更点】

- ・75歳以上の健康診査（後期高齢者健診）について、コロナ禍前と同様の「町内別に日時・会場指定」とし、予約しなくても受診できる体制にします。
- ・春に受診希望が殺到するため、春先の健診日数を増やします・。

【今後の方向性】

○受診勧奨

- ・保健事業等での周知や受診勧奨はがき、ラジオ、広報誌、市の公式LINE、ホームページ、電話などを効果的に使い、受診勧奨を実施していきます。

○健診査等予約システム登録を推進

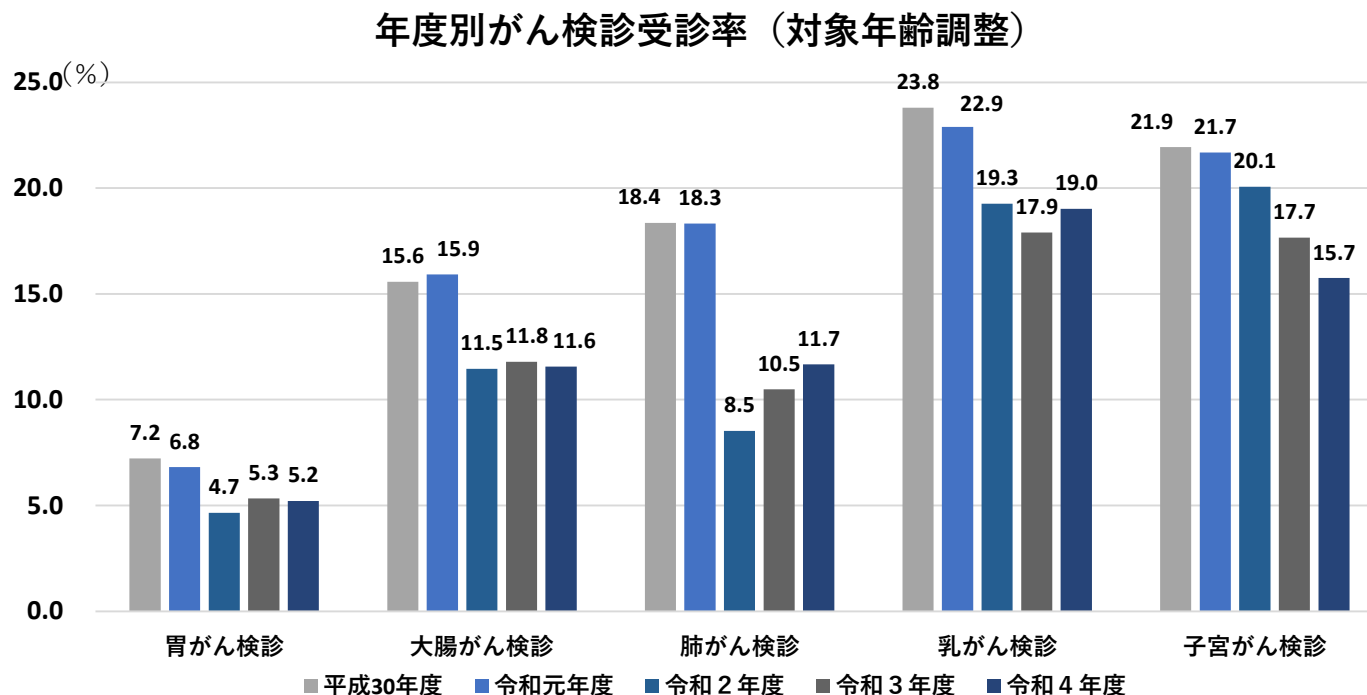
- ・引き続き保健事業等において、健康診査等予約システム登録を推進していきます。

○周知活動

- ・生活習慣病予防の重要性に加え、健康づくりの観点からも健(検)診受診を勧めていきます。

2 がん検診受診率向上の取り組みについて①

【実施状況】



がん検診結果報告の数値より算出（対象者人口はR4.11月末現在）

肺がん検診は、特定健診会場で同時受診可能であることの周知の強化、および秋の単独検診に向け老人クラブを通じ受診勧奨したことにより、令和3年度より1.2%増加しました。胃がんリスク検診で要精検となった方は、胃内視鏡検査を受けるため、胃がん検診をキャンセルされています。乳がん・子宮がん検診については医療機関検診の受診勧奨を実施しています。また寄附講座においては「気になる胃がん・大腸がん」、燕市医師会市民公開講座では「健診・検診をうけましょう」というテーマで受診行動につながる内容を盛り込んで、ご講演いただきました。

2 がん検診受診率向上の取り組みについて②

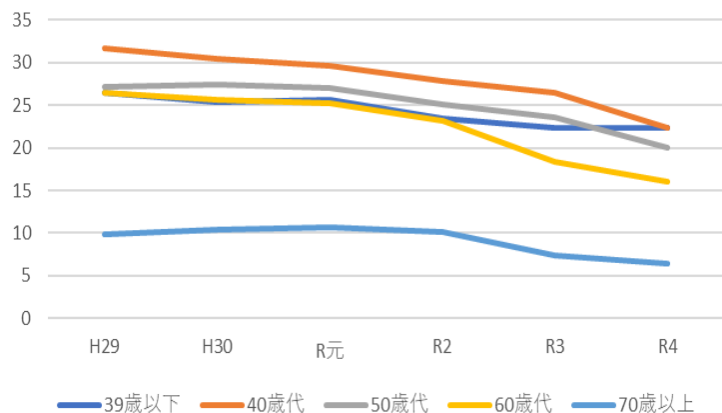
【実施状況】

子宮がん検診年代別受診者数

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	集団	施設	集団	施設	集団	施設	集団	施設	集団	施設	集団	施設	集団	施設
39歳以下	83	1395	76	1223	78	1212	63	1172	0	1022	0	1075	0	905
40歳代	145	1251	135	1213	109	1163	116	1122	0	1007	0	757	0	506
50歳代	171	936	173	946	160	993	167	956	0	918	0	664	0	455
60歳代	434	870	411	840	351	760	327	761	0	643	0	517	0	321
70歳以上	379	434	450	462	448	498	471	557	0	567	0	450	0	295
種別合計	1212	4886	1245	4684	1146	4626	1144	4568	0	4157	0	3463	0	2482
合計	6098		5929		5772		5712		4157		3463		2482	

施設※11月末現在

子宮がん検診年代別受診率の推移



【子宮がん検診の受診体制の変更】

コロナ禍により、R2年度からは感染拡大防止のため、施設検診のみとしました。

R3年度から、ガイドライン通りに40歳以上は隔年受診としました。

⇒集団検診で受診していた方（60歳代以上が多い）が施設検診に抵抗感を感じていると推察できます。

⇒40歳以上は隔年受診としたため、毎年受診していた人は申し込みに戸惑いがありました。

【受診率向上にむけて】

- ・21歳～46歳の5歳刻みの年齢に、受診票を送付しています。
- ・検診期間中後半に未受診者に対し、はがきにて受診勧奨を実施しました。

2 がん検診受診率向上の取り組みについて③

【課題】

- ・コロナ感染拡大防止対策に伴うがん検診の体制の変更や、コロナ感染を心配しての受診控え、予約制への戸惑いが、受診率に影響を及ぼしている状況が続いています。今後も、予約しやすい環境づくりと、感染対策に留意した健診体制に加え、効果的な受診勧奨をしていく必要があります。
- ・予約制については、「待ち時間が少なく、混んでいないことから安心して受診できる」と一定の効果があり定着してきています。

【今後の方向性】

○受診勧奨

- ・大腸がん検診 検診申込の世帯調査票に大腸がん検診の必要性を周知するチラシを同封し、検診申込み勧奨をします。
- ・乳がん検診・子宮がん検診は検診期間後半に未受診者に対して受診勧奨はがきの送付を継続します。
- ・保健事業や保健推進委員、食生活改善推進委員の地区活動で子宮がん検診の受診勧奨を実施します。
- ・市内医療機関・公共施設等へのポスター掲示を実施します。
- ・広報誌・市の公式LINE・ホームページ等での受診勧奨を実施していきます。

○日程、予約制等の工夫

- ・健(検)診日程や予約期間等を工夫し、受診しやすい体制を構築していきます。

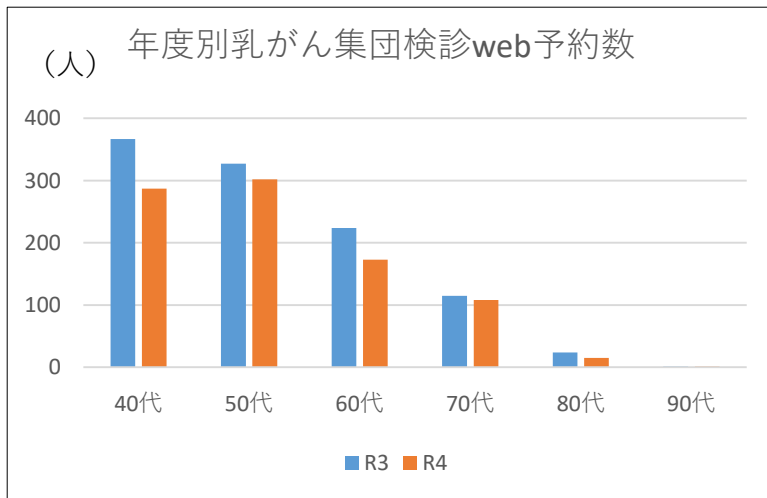
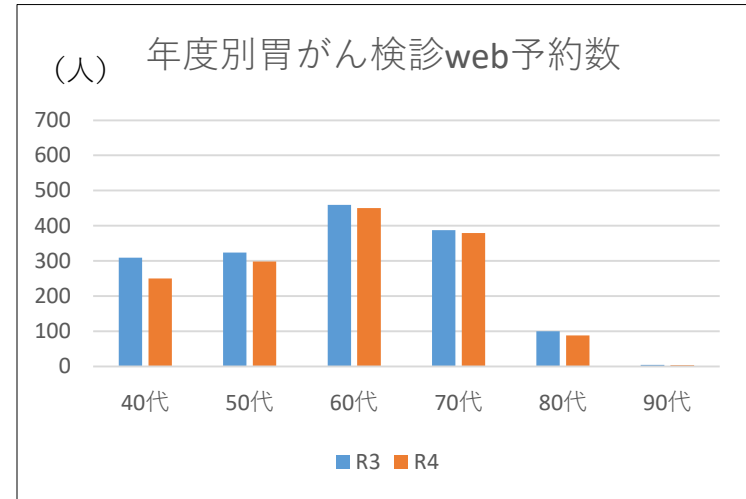
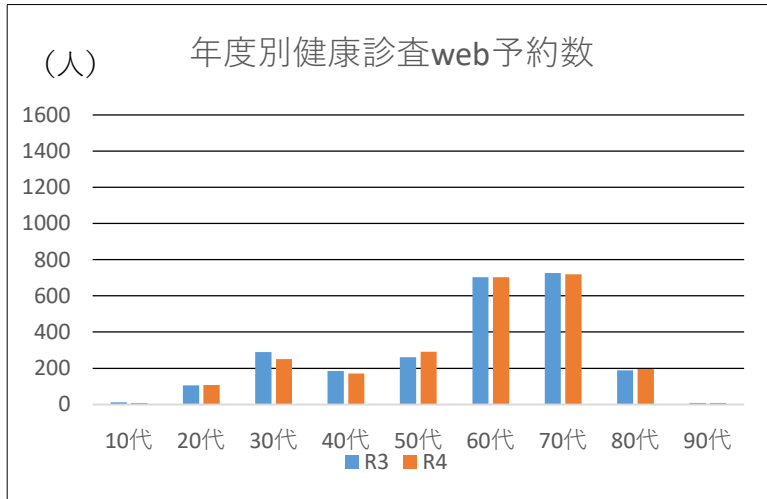
○健康診査等予約システム登録を推進

- ・引き続き保健事業等において、健康診査等予約システム登録を推進していきます。

○周知活動

- ・がんの早期発見・早期治療の重要性について普及啓発をしていきます。

【参考】 各種検診の予約状況について



Web予約については前年とほぼ同数であり、前年度にWeb予約した方は今年度も引き続き、Web予約しています。

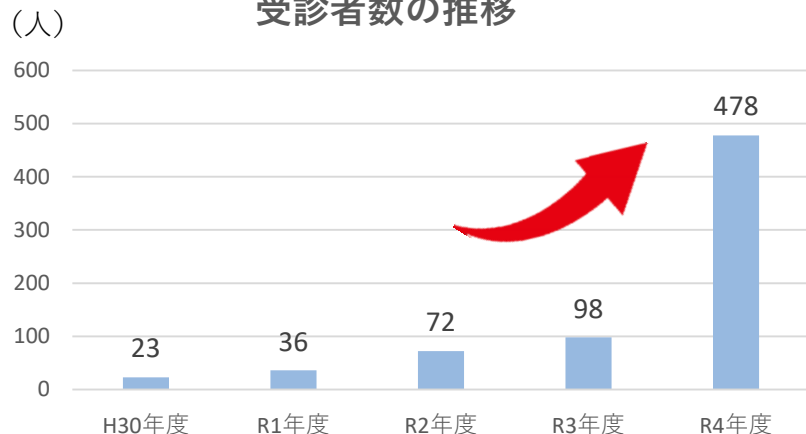
本人がWeb予約するだけでなく、家族が予約を代行されることもあり、Web予約は定着してきています。

乳がん集団検診は隔年受診のため、昨年と異なる対象が受診しています。40～50歳代のweb予約者が多いのは、共通の傾向です。

3 肝炎ウイルス検診の拡充について①

【実施状況】

受診者数の推移

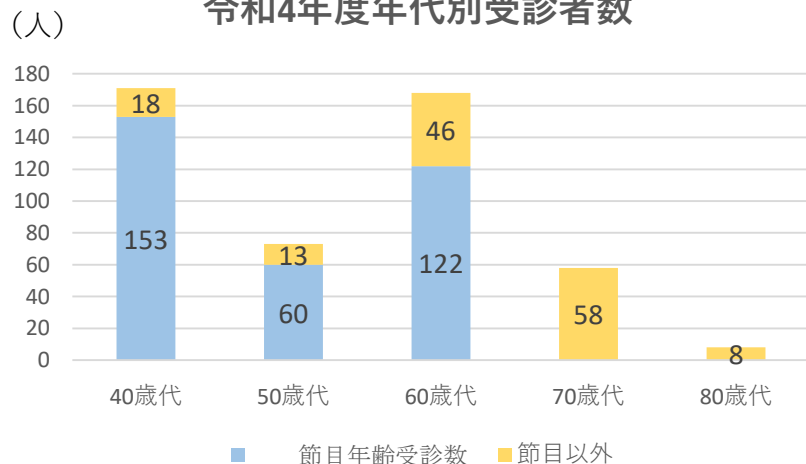


対象者は過去にこの検査を一度も受けたことがない人です。

H20年～R3年の14年間の受診者数は延べ499人でしたが、令和4年度は、受診者数は478人と大幅に増加しています。

B型肝炎陽性者2名が見つかりました。

令和4年度年代別受診者数



健診会場で、40～65歳の節目年齢を対象に受診勧奨をしたことで、40～60歳代の受診者の7～8割が節目年齢でした。

40歳に受診票を送付したこともあり、40歳代の受診数が一番多くなっています。

3 肝炎ウイルス検診の拡充について②

【課題】

- ・従来の単独検診に加え、健康診査との同日実施や40歳への受診票送付により、受診者数が増加しました。しかし、市全体として累積受診者数は他市町村と比較して少ない傾向です。今後も必要な人が受診につながるように、受診勧奨を継続していく必要があります。
- ・肝炎ウイルスについては健診会場でも市民から聞かれることがあります。今後も肝炎ウイルス検診を通して、正しい知識を普及していく必要があります。

【今後の方向性】

○節目検診の継続

節目検診が一巡する5年間(R4年度～R8年度)は、今年度と同様の方法で実施する予定です。

○ターゲットを絞った受診勧奨

受診者数が少ない、40～50歳代を中心とした若い世代への知識の普及と受診勧奨を継続します。

4 Withコロナ時代の健康づくり事業の取り組みについて①

【実施状況】

<つばめ元気ががやきポイント事業>

○年代別登録者の状況

(単位：人)

年度	19歳以下	20-39歳	40-59歳	60-79歳	80歳以上	合計
R4	3,850	2,027	2,883	5,244	1,287	15,291
R3	4,252	2,646	3,138	3,847	750	14,633

※新たに協定締結生命保険会社による登録促進を実施。

※コロナワクチン集団接種会場での周知を強化。

※19歳以下にはこども手帳配布数含む。

- ・登録者は年々増加しており、R4年度は目標値の14,700人を達成しました。
- ・幅広い世代の健康づくりツールとして浸透しています。取組者には健康行動の習慣化や、家族で取り組むことでの継続性と楽しさの向上、次年度への取組意欲などが見られています。

<ベジ足し>

- ・配布状況：約10,000部配付。食生活改善推進委員により地域住民、市内小中学校、母子事業、成人式スーパー等で配布し多世代へ啓発。
- ・「苦手な野菜もこのレシピで食べれた」「調理法によって里芋のもちもち食感が新発見!」「自分では思いつかないレシピで簡単に美味しくできて大活躍」等、野菜摂取促進につながる感想が寄せられました。

<健康づくりチャレンジ企画>

- ・応募状況：69件（今年追加の新テーマ「笑顔あつめ」29件）
- ・「笑顔あつめ」は家族や友人等の「笑顔」と「元気の素」を引き出すことで相互に笑顔と元気が弾けるひと時になり、心の健康につながるものと考え今後も実施していきます。



▲献立一例



4 Withコロナ時代の健康づくり事業の取り組みについて②

【実施状況】

<つばめ健康3つのススメ>

○肥満対策、運動不足解消、地域のつながりづくりがより求められています。

- ・保健推進委員活動は身近な地域単位で活動。運動教室や地域発見しながらウォーキング、防災や歴史から地域のつながりづくり、音楽をテーマに癒しやストレス緩和等に取り組みました。
- ・食生活推進委員活動は食を入口に地域や学校、事業所など幅広い世代を対象に活動。楽しく興味をひく媒体を創作し、ベジ足しの普及をはじめさまざまな食育活動を展開しました。
- ・元気磨きたいは人とのふれあいや活躍に主軸を置き、子育て支援センターや通いの場等で元気の出前活動を実施。アートやデジタル、脳活性、劇団など多様なテーマで21プロジェクトが活動しました。

<市内企業歩数対抗戦「燕JOYウォーキングGOO！」>

○働く世代の運動習慣の契機および職場内での交流促進を目的に今年度初めて11月の2週間実施しました。

- ・新潟県のアプリ機能を活用し5人以上を1チームとし平均歩数を競います。17チームが参加されました。
- ・参加者アンケートでは、運動意欲向上、交流増加、運動の習慣化などの回答がありました。

【課題】

・健康づくり3団体（保健推進委員協議会・食生活改善推進委員協議会・元気磨きたい）の活動においても未だ会話やふれあい、調理実習などの活動が十分にできない状況が続いていますが、テーマや会場選定、動画や媒体の工夫など新たな視点での活動を発展させていくことが重要です。

・デジタル化が進展する一方、対面でのつながり、交流の機会を保ち元気増進を図ります。また、より自分に合った健康づくりの実践、継続に結び付くような仕組みを整えていくことが必要です。

【今後の方向性】

○「つばめ元気かがやきポイント事業」に取り組む契機とするため、短期集中キャンペーン等を企画します。

○チーム対抗「燕JOYウォーキングGOO！」を企業以外の団体にも計画し、運動習慣と身近なコミュニティ内の交流促進を図ります。

○「健康づくりチャレンジ企画」をSNSで配信する等、健康情報、元気の発信やシェアにデジタル化を有効活用します。